

文部科学省

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）指定校



宮崎県立飯野高等学校 令和3年度 実践報告書

目次

1～3 研究概要

4 コンソーシアムによる実践

5 カリキュラム開発

6 えびの学

7 地域貢献活動

8 地域探究活動

9 地域支援活動

10 学びのアウトプット

11 本事業における生徒の変容

12 成果の普及方法・実績について

資料（新聞掲載）

1 研究開発名

地域価値を創造するグローバル・ヒーロー育成に向けたカリキュラム開発および実践

2 研究開発概要

本校では、地域課題に関心がある生徒も多く、地域の団体と連携して生徒主体のイベント実践や継続的に様々な活動が行われるなど本校生が地域に欠かせない存在になっている。本校のある宮崎県えびの市でも社会課題を抱えており、地域課題を考えることが社会課題を考えることにも通じる。そこで、これまでの「地域学」を発展させ、新たな価値の創造と地域社会で活躍するグローバル・ヒーローの育成するための3年間を見通した地域課題解決学習のカリキュラムを開発を行う。開発・実践に当たっては地域の団体などと連携して、人材育成により地域創生の核となる高校を目指す。

3 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

魅力化コアチーム 委員会	地域の事業者と教員で構成される。カリキュラム内容に関する提言や探究の伴走の在り方、まなびの場づくりについて協議、対話を行う。
学科・コース会議	学科・コースごとに担任・副担任が構成員となり研究プログラムに基づく実践を行うための連絡会議
カリキュラム・マネジメント研修会	本校の探究活動をより深化させるため、教科横断のグループで各教科の実践について協議 →各科目で実践

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

事務局（進路指導部）に所属する教師が企画・立案を行い、魅力化コアチームに所属する教師が地域のコアチーム構成員とカリキュラム開発を行う。また、学科・コース会議には、すべての教師が学科・コースごとに所属し、実践する上での学習内容や指導法を共有する。また、これらの活動を支援するため、事務局に地域協働学習実施支援員、魅力化コアチームにカリキュラム開発等専門家を配置して、活動の支援助言等を行う。

③定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

進路指導部を事務局として地域協働推進校としての研究開発全般のマネジメントを中心に担う組織としている。教師と地域協働学習実施支援員で構成する。魅力化コアチームへの原案提示、事業の企画調整、関係機関との連携調整、予算の執行等を担当する。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

魅力化コアチーム 委員会の実施 (全2回)	・高校生プロジェクトの在り方・高校生の活動支援 ・人材の還流につながるプロジェクト型学習・高校生との対話 ・グローバル・リーダーとは・カリキュラム開発専門家による研修会
-----------------------------	--

4 コンソーシアムによる実践/管理機関の取組・支援実績

①コンソーシアムの構成団体

【飯野高校魅力化の会】

えびの市、えびの市議会、飯野高校同窓会、えびの市教育委員会、えびの市自治会連合会、えびの市農業協同組合、えびの市商工会、えびの市観光協会、えびの市地域婦人連絡協議会、えびの市子ども育成連絡協議会、えびの市体育協会、えびの市社会福祉協議会、えびの市民生委員児童委員協議会、えびの市教育・保育施設園長会、えびの市青少年育成市民会議、えびの市高齢者クラブ連合会、飯野高等学校 PTA、えびの市中学校校長会、宮崎県議会、えびの市 PTA 連絡協議会、宮崎県立飯野高等学校



【魅力化コアチーム委員会】

大正大学、宮崎大学、飯野高校、VoiceGift Lilybell、えびの市青年会議所、明石酒造株式会社、NPO 法人ニシモロベース、えびの市地域おこし協力隊、えびの市企画課、HANNAH、(株)BEBUYA、(有)東康夫養鶏場、株式会社 BRIDGEthegap、宮崎県キャリア教育支援センター

②魅力化コアチーム委員会

事業計画

高校からの現況報告

事業実施に向けての意見交換会

令和3年度 第1回 魅力化コアチーム委員会

①令和2年度報告

②本事業によるカリキュラム開発について（各委員からの意見）

・起業プロジェクトに取り組んできたが、企業×コーディネーター×生徒というように生徒と企業をつなぐ存在が必要である。今後は、消費者教育も必須になるのでお金を回す経験も必要なのではないか。

・本校の教育改革には教育格差や相対的貧困を防ぐものを期待したい。ハングリー精神のある子どもたちに知識を与えたらものすごく成長するのではないか。ハングリー精神を持っていない子が増えている気がする。

そこには機会の格差があることも大きいのではないか。我々サポート側でも未来を見据えて、お金が集まってくる仕組みを作る必要がある。消費者は気づく。そこに気づいている自治体は人材育成に舵を切っている。昨年度視察した津和野町はまさにそのような取り組みがなされていた。本校も魅力化の目的は、元々は存続だったがそうではなくなってきた。

・今後の取り組みとして、最前線戦っている人から講義はどうか。世の中のことを知ったうえで生きていくすべを知ることも大事なのではないか。何をして何を学ぶべきなのか、どうやって対話をしていくのか、どうすれば稼げるのかをインプットして前に進むことも大切である。



- ・学びの在り方を考える上でも様々な業界人から話を聞くことで「なぜ学ぶのか？」につながるのではない。構造を学ぶことで世界観が広がる。その副次物として成功がある。今すぐ成功がある というものではない。今、何をすればいいのか考える機会が必要。そして、どんな仕事があるのか、本質的な教養とは何か、自分事として考えられる教育が必要ではないか。確かに国語も数学も必要であるが、必要性を言われないと面白くない。だから、その先を見せることが大事で、自分がどうありたいのか、そのために何を学ぶのか。自分自身の経験を振り返っても「絶対、社会で役に立たないだろうな」と思いながら勉強していた。
- ・今後の地域との協働の在り方について
寄付の文化が日本にはない。アメリカでは、貧しかった子がいい教育を受けると寄付をする。アメリカの大学は運営資金の寄付金が7~8割である。伸ばせる人をどんどん伸ばして社会のリーダーにしている。
- ・動画サービスの活用も積極的にすすめてはどうか。教えている先生が20世紀の価値観ではダメ。新しい価値観を持つ人材が日本社会をリードしていく。
- ・教育のジレンマもある。意欲格差、なぜこの社会は不正があるのか、格差があるのかなど実際の社会には課題が山積である。地球温暖化などにしてもそうである。成功したら、お金を稼いだらどう社会に貢献するか、社会に還元しなければいけないというマインド「ノブレスオブリージュ」も育成しなければならない。
※「ノブレスオブリージュ」…身分の高い者はそれに応じて果たさねばならぬ社会的責任と義務があるという、欧米社会における基本的な道徳観。もとはフランスのことわざで「貴族たるもの、身分にふさわしい振る舞いをしなければならぬ」の意。
- ・勝った人がえらい、負けたお前が悪い教育では生徒がダメになる。日本はいい国だと思うが、当たり前なこと、課題に気づきにくい国かもしれない。足を引っ張る文化もあって実行すること、転換するのが遅い。世界の中での立ち位置に対する危機感をもっている人が少ない。変化することととにかく否定する人たちが一定数いる。正当な評価を出すしくみも必要である。
- ・カッコいいという感覚、リーダー的な存在に対する評価、当たり前といわれていることに挑戦することが必要。

令和3年度 第2回 魅力化コアチーム委員会（各委員からの意見）

次年度以降に向けて

- ・コロナ禍でできなかった部分もあるが、委員として何ができたのか？何ができるのか？役に立っているのだろうか？という想いがある。生徒のかかわった時の情報が入ってこないのが役目を果たしているのか不安である。伝えられるものが出せてない。ニースがなければ役立っているのか。
- ・コロナ禍でできなかった生徒の様子→教員も生徒も消化不良ではないか。
- ・起業家プロジェクト→最後どうなっているのか情報が欲しい。

イベントに向けて何度も対話をしてきた。先日は、キャンプ場整備に向けて草刈りを30人くらいで実施したが、緊急宣言により頓挫してしまった。また、大人が介入しすぎたケースもあったので今後の伴走では気をつけたい。

<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献/支援活動→午後だと飲食店は営業が終わっているところもあるので実習日程の再考も必要ではないか。 ・飯野高校OBにもいい人材がいる。さらに積極的な活用を進めた方が良い。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナのチャンスを考えること、オンラインで活用することも大事である。 ・探究の在り方をもう一度考える時に来ているのではないか。 ・教育DXも必要である。一層の促進をした方が良い。10年後の未来がきたという視点で 大変な時ではあるが、準備を積み重ねていくことでチャンスが来た時に動けるようにしていく。そういう姿勢を教えていくべきではないのか。 ・2年もオンラインやっていると飽きているのも事実。 ・えびのでキャンプをやってコロナ拡大はしないのではないか。大人が警戒しすぎて、子供たちの学びが制限されていないか。

③カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザー

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	山中 昌幸	大正大学 大学教員	
活動日程	活動内容		
7月1日(木) 10月22日(金)	<p>魅力化コアチーム委員会 各委員の意見をふまえ、県外等での事例や実績等についての紹介や解説、本校における活動の発展性など協議での先導的な役割を果たした。以下は、カリキュラム開発専門家による助言および提供されたテーマである。</p> <p>第1回 ①企業×コーディネーター×生徒に向けた取組み ②今後の地域との協働の在り方について</p> <p>第2回 ①探究活動の支援体制について ②生徒や職員を交えた対話の機会</p>		
6月22日(水)	カリキュラムに関する指導助言		
8月1日～12日	オンライン面談(アイデア出しと視野を広げるための生徒との面談)		
9月21日(水)	キャリアやテーマの考え方を理解する指導法について		
10月6日(木)	カリキュラム開発における助言		
10月26日(水)	プランシートの作成について		
11月14～15日	起業プロジェクトスタートアップ合宿		
12月6日(火)	探究活動の年間計画についての相談		
1月18日(水)	各企画のブラッシュアップについて		
1月25日(水)	各企画の先行事例について(N高等学校の取組み)		

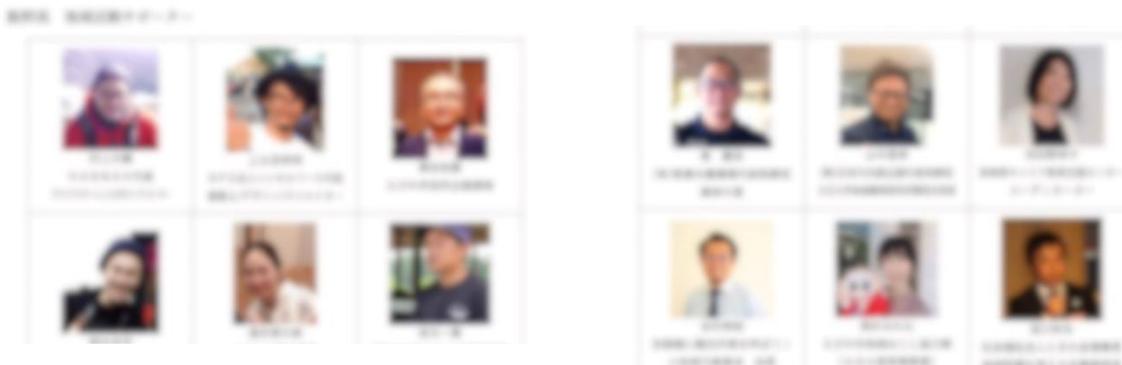
④地域協働学習実施支援員について

分類	氏名	所属・職	雇用形態
地域協働学習実施支援員	遠目塚 文美	VoiceGift Lilybell 代表	
日程	内容		
生徒・職員の要請時	活動のサポート、コーディネート		
7月1日(木) 10月22日(金)	魅力化コアチーム委員会 ・地域における活動実践報告 ・教職員への情報提供、関係者、団体とのコーディネートについて ・生徒の活動のサポートについて		
4月21日(水)	子育て支援プロジェクト知事、教育長表敬訪問		
4月30日(金)	ICT活用に関する意見交換、イエメン支援プロジェクト情報提供		
5月14日(金)	地域サポーター制度に向けた協力依頼		
6月2日(水)	災害とジェンダーに関する講師とのコーディネート		
6月8日(火)	ソロプチミスト小林とのコーディネート		
6月30日(水)	生徒主催「地域の未来を語りあう会」についての協議		
7月1日(木)	起業プロジェクトについて生徒の活動サポート		
7月16日(金)	青山学院大学視察対応、意見交換		
7月22日(木)	生徒主催「地域の未来を語りあう会」への参加		
7月27日(火)	災害備蓄品の活用に係るコーディネート		
10月7日(木)	地域との協働に係る今後の活動に向けた協議		
11月17日(水)	地域との協働に係る今後の活動に向けた協議		
12月15日(水)	地域との協働に係る今後の活動に向けた協議		

⑤地域サポーター制度

コンソーシアム内の対話で話題となったのが地域人材の活用である。魅力化コアチーム委員会のメンバーをはじめ、共学共創プラットフォームづくりの土台となる地域サポーター制度を創設した。これは、生徒たちが探究活動を行う上でのインタビューや相談、サポートなどが円滑に進むようこれまで生徒たちの探究活動に携わっていただいた方を中心に声をかけて作ったものである（登録者26名）。

（下のようにサポーター一覧を作成して必要な際には、生徒、職員ともアクセスできるようにしている）



⑥運営指導委員会について

氏名	所属・職	備考
津曲 洋一	えびの電子工業株式会社 代表取締役社長	
明石 秀人	明石酒造株式会社 代表取締役社長	
矢野 健二	宮崎国際大学 地域連携センター長・大学部長	
福永 栄子	株式会社アイロード 代表取締役社長	
石坂 乃里子	えびの里山の会 会長	
活動日程	活動内容	
10月12日（月）	<p>第1回運営指導委員会</p> <p>事務局より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業報告 カリキュラム開発について <p>各委員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが地域の方々から課題を聞く場を開きたいと聞いた。ぜひその場を作ってほしい。 ・地域協働の事業なので一般市民がもっと入りやすい高校にしてほしい。高校と民間の敷居をさらに低いものにしてほしい。学校をオープンなつくりにしていってはどうか。 ・生徒たちが楽しくやっている様子が伝わってくる。 <p>今後取り組んでほしいこと（注力してほしい事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先を見据えて形を残す（生徒たちの変容、生徒の声を入れてほしい）、生徒が作成したものを残してほしい。元にもどらないようにすることが大事である。 ・今できつつあるスピリットを伝統にしていくことが大事である。 ・次の世代に残す10か条みたいなものがあるとよい。 ・マニュアル（引きついでいく仕掛け）の作成。 ・結果、生徒、先生がどう変わったかの資料もあるとよい。 ・持続性を考えれば後援会の設立（民間によびかけ、資金のバックアップ）が必要ではないか。 ・地域⇄高校が誰でもアクセスできるしくみを作るとよい。 	
3月14日（月）	<p>第2回運営指導委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の総括 ・令和4年度以降の取組みに向けて <p>各委員より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の変容、教職員がどう変容したのか、生徒がどう変容したのか今後示していけるとよい。 ・（アンケート結果にあるように）生徒が地域に帰ってきたいといえることこそが成果ではないか。 ・卒業後は、当然、域外に出てもいい。グローバルという視点で行動する 	

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け（各教科・科目や総合的な学習（探究）の時間，学校設定教科・科目等）

各学科・コースに以下の学校設定科目をカリキュラム化している。

学科 コース	1年生	2・3年生		
	全学科	普通科総合コース	普通科探究コース	生活文化科
科目名	えびの学 週1単位	地域貢献活動 週2単位	地域探究活動 週1～2単位	※地域支援活動 週4単位

※課題研究を地域支援活動と位置付けて実施

③研究開発の内容や地域課題研究の内容について

本事業の完成年度である本年度は、昨年度までの内容・実践を改めて見直した。カリキュラム内容は次頁以降に記載する。

6 「えびの学」(1年生必修)

①えびの学～キャリア教育×探究の取り組み～

昨年度までとは内容を変えて、地域を知る＝地域で活躍する大人とのつながりをつくることからはじめ「仕事図鑑」の作成をはじめて行った。探究的な学びはもちろんキャリア教育の要素を入れながら、地域実習や2年時以降の活動につながる内容とした。

1 学期	3 年生による探究活動の紹介 地域の職業を知る 地域事業者へのインタビュー 仕事図鑑の作成 未来予想図づくり
2 学期	地域実習に向けて ・問を見つける ・情報を収集する 地域実習 ・事前ワーク、マナーセミナー、3 日間の実習 実習成果発表会 ・論理的に考え、表現する→プレゼンの作成
3 学期	自分の未来 ・自分のミライを考える ・問を見つける→テーマの設定・情報の整理分析

総合的な探究の時間を代替する学校設定科目で、1 年生 87 名を対象に行った。2 年時以降の探究活動にスムーズに移行できるよう地域で探究の基礎を学ぶということをコンセプトに「地域課題を考える」「問を立てること」「情報収集」の方法を1 学期の計画を変更し、地域実習による実践を通して学ぶ機会とした。

②えびの青年会議所フォーラム(7月)

この取り組みは、地域で未来への意志をもって活動している30～40代の事業者と高校生が交流することで、「高校生が地域を知る」「地域でもできる」ことを実感してもらうことを目的にえびの青年会議所フォーラムとして毎年開催している。当日は、地元事業者とのクロストークを通して、この先に取り組む地域活動に向けた理解や地元にながらも持っていなかった視点を養うことができた。また、事後学習では将来の自分についても考える機会をつくりキャリア教育の要素を入れたものとした。

青年会議所フォーラム事後学習の授業内容

使用する教材	
・進路ファイル・青年会議所フォーラム感想文・事後指導ワークシート(My Will List)	
本時の目標	
青年会議所フォーラムを終えて、これから取り組みたいことや挑戦してみたいことを書き出し、今後の探究活動におけるテーマを見つける準備を行う。	
時間	指導内容
10分	青年会議所フォーラムの感想の返却を行い、振り返りを行わせる。自分が書いた感想を再度読ませ、その感想を4～5名のグループで共有させる。1人30秒程度で感想を言う。また、グループで共有させる前に全体に、どのようなことを感じたか、問いかけても良い。

5分	<p>本時の学習目標を確認する。</p> <p><学習目標></p> <p>My Will List で自分の取り組みたいこと、挑戦したいことを見つけよう。</p> <p>補助資料の探究テーマを探す2つの輪と今後どのように探究テーマを見つけていけばよいか、説明する。</p>
10分	<p>My Will List の取り組み方について説明し、やってみたいこと、取り組みたいこと、挑戦してみたいことを何でもいいので、たくさん書き出させる。この際間違った答えはないので、たくさん書き出すよう指示する。</p>
10分	<p>My Will List に書いたことを共有する。書いたプリントを生徒同士で交換し、4～5名を目安にコメントを記入させると良い。この際、否定的な表現は使わず、書かれた相手が嬉しくなるような前向きなコメントを書くように伝える。</p>
15分	<p>My Will List に書いたものの中から2つのキーワードを選び、なぜ、そのキーワードを選んだのか、記入させる。記入が終わったら、4～5名のグループで共有をさせる。(自分の考えをアウトプットさせることが目的です。)</p>

③地域実習（9月～11月）

2学期は、10月に実施する3日間の地域実習を柱とした探究の基礎を学ぶ機会に位置付けている。生徒たちは事前学習～振り返りまで探究のサイクルを体験し次年度につなげるプログラムにすることができた。

月	日	曜日	内容・備考
9	8	水	事前指導① 全体説明、しおりの配布、各グループで活動
	14	火	生徒の希望調査を元に、生徒の配属先を検討。(学年会)
	22	水	事前指導② 各グループで活動、事業所の調べ学習、目標設定
	29	水	事前指導③ 事業所への事前確認電話の練習
10月16日(金)までを目安に電話をさせる			
10	13	水	事前指導④ 外部講師によるマナー講座
	19	火	事前指導⑤ 学年全体で注意事項の確認等
10月20日(水)～22日(金) 地域実習実施			
10	25	月	朝のHRでしおりを回収し、担当の先生でチェック
27日(水)までに未記入等ある場合は、担当の先生で指導をする			
	27	水	事後指導① 全体指導、各グループで報告、お礼状の書き方指導
11	17	水	事後指導② お礼状の清書、発表会に向けた準備
11	24	水	事後指導③ 発表会に向けた準備

12	1	水	全体発表会①
	2 2	水	全体発表会②、地域実習まとめ



地域実習はもともとインターンシップであったが、探究的な要素も入れた地域実習へと変化させている。単に事業所での実習という位置づけでなく地域を様々な角度からみる3日間にして、間を持たせることで探究のベースを学ぶ機会としている。このこともあり実習の成果発表では、事業所体験だけでなく、地域から学んだ内容も入ってきておりこの形が定着しつつある。

④みやぎき先端校サミット／RISE（上智大生）によるワークショップの活用

10月27日（水）に「みやぎき先端校サミット」を開催した。これは、宮崎県立福島高等学校1年生との交流事業で本校1年生が主体となって実施した対話型イベントである。開催に先立ち7月に有志による実行委員会（22名）が発足し当日に向けて準備を行った。準備にあたっては、上智大生でつくるRISEによるワークショップに実行委員会メンバーで参加してサミット当日の参考にすることとした。このワークは、デザイン思考とリーダーシップワークショップを通じて若者が未来のチェンジメーカーになることを後押しするRISEのコンセプトが、両校の1年生が今後取り組む地域での探究活動につながるものであった。このことから同じワークをサミットでぜひ飯野高生にさせてほしいとお願いをしたところ快諾いただき実施につなげることができた。なお、RISEの活動は2021年の7月にスタートしたもので10月までの4ヶ月間に関東、新潟、宮崎など240名以上の中高生がワークショップなどに参加している。ワークショップ後には、受講したメンバーが準備を進め当日は飯野高生×福島高生による熱気あふれるサミットを開催することができた。



7 地域貢献活動（普通科 総合コース必修科目）

①目的

本校生徒の実態として、入学前の成功体験が少なく自己肯定感が低い生徒も少なくない。また、そのことが学習意欲や目的意識をもてない一因にもなっている。これらのことから普通科総合コースにおいては校内での座学を中心とした学習に加えて、校外実習を年間通して継続的に行う地域貢献活動を学校設定科目として設定する。これは、以下のことを目的として行うものである。

- ・体験的な学習活動をとおして、学ぶことの楽しさや意義を理解する。
- ・地域の施設や人材を活用することにより、郷土に対する理解を深める。
- ・校外の幅広い年齢層の方々との異世代交流、発表会や報告会を行うことにより、豊かな感性やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を育成する。
- ・人間関係を築く力、社会に参画し寄与する態度、規範意識や公共心の育成を図る。
- ・自己肯定感を高め、将来有為な人材を育成する。

以上により、生徒の自己肯定感の育成と地元で愛される学校づくりを目的とし、「地域に学び地域に貢献する」をスローガンに、「地域貢献活動」を行う。地域での活動体験を通して、達成感や充実感を持たせると同時に、社会人としての責任や社会的役割を感じさせながら、自己の進路を模索する活動に結びつけることをねらいとしたものである。また、地域の人々と交流し、地域に貢献することにより、開かれた学校・信頼される学校づくりの一環とする。

②対象学科コース／単位

普通科総合コース 2年生 2単位 3年生 2単位

③期間・時間（取り組みの概要）

えびの市内の公共機関等の協力を得て、各施設において本校総合コース生徒が職場実習を体験し、毎週水曜日の午後に実施するもので2～3年生の2年間の取り組みである。まず、2年4～7月にえびの市について学び、9月から実習を行う。3年生の7月まで実習を行い、高校生でもできる企画・実践を行う。9月から活動のまとめとプレゼンテーションの準備を行い、地域をはじめ中学生なども対象に活動成果報告会を開催する。

水曜日 5・6時限（50分授業 13：35～16：25 ※45分授業 13：15～15：55）

2年													3年										
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
準備	出前講座																						
					実践活動・テーマ活動（週2時間1年間）																		
							リフレクション（振り返り）・個人レポート作成																
												進路実現											

④地域学習「えびの市を考える」

月	単元	活動内容	場所
4	ガイダンス①	マナー講座	H R
4	ガイダンス②	オリエンテーション	H R
5	えびの市を考える①	えびの市の町づくり	H R
5	えびの市を考える②	えびの市の歴史・文化	H R
6	えびの市を考える③	えびの市の観光振興	H R
6	えびの市を考える④	町づくりを担うえびの市の農業	H R
6	えびの市を考える⑤	高齢者・障害者の福祉サービス	H R
6	えびの市を考える⑥	えびの市の地域おこし	H R
7	実習施設説明	各施設での活動内容等の説明	H R
7	実習準備	自己紹介カード作成等	H R
9	実習準備	活動の打ち合わせ	各施設
9月～7月 各施設での実習へ			

※講座の実施日については以下のように実施

講座 1 3 : 3 5 ~ 1 4 : 4 5 (7 0 分程度) ワークシートのまとめ 1 4 : 5 5 ~ 1 5 : 2 5

この学習活動では、まず2年次の4月～7月まで地域学習を行う。これは実習に先立ち講義+対話の授業を行い、飯野高校のあるえびの市の理解することはもちろん、高校生視点で地域社会が抱える課題や将来の展望について考える時間とする。講座については、えびの市と連携し市の出前講座をベースに講義を行う。(年度末にえびの市社会教育課に依頼する)また、本校生徒のうち半数程度がえびの市外から通学している。本学習を実施するにあたり、えびの市について少しでも理解を深めたうえで実習活動を行うことが、地域への興味・関心や地域とのつながりを意識できると考える。実際、市内出身の生徒でも知らないことが多いのが現状である。講義の内容については、生徒にとって興味や関心のあることばかりではないため、毎回約70分の講義+対話によりインプットだけでなくアウトプットできる場もつくる。これにより、地域への理解をより深めていくものとする。



⑤公共施設等での体験活動(1年間の実習活動)

地域学習「えびの市を考える」の講義が終了すると実習に向けての準備に入る。まず、実習先となる施設での活動の内容、受け入れ人数等を紹介する。あわせてそれぞれの施設の場所を市内の地図を示して説明をする。これは場所によって移動時間が異なり、生徒の負担も大きく違って来るからである。最も近い施設で徒歩10分。最も遠い施設は自転車で約25分かかる。説明を受けた後、希望調査を実施する。生徒は第1希望から第3希望までの施設を選択し、調査票を提出する。提出された調査票から進路希望等により実習先の決定を行う。

実習先が決定すると受け入れ施設に提出する自己紹介カードを作成する。希望した理由や活動のなかで特に頑張りたいこと、特技や趣味等について記入する。3年次の進学や就職の試験に向けての書類作成の指導にもつなげるため、下書きからはじめ、時間をかけ作成させる。

8月下旬～9月上旬に実習準備として施設を訪問する。ここでは、各施設より活動内容の説明や活動に際しての諸注意が行われ、本活動に入りやすくする。

9月から実習の受け入れ施設は以下の通りで、各施設での活動内容は表のとおりである。

事業所	受入可能人数	活動内容
飯野小学校	32名	学習支援（授業サポート、自学支援）・クラブ、委員会活動補助・図書登録・掲示物作成
上江小学校	2名	学習支援（授業サポート、自学支援）・クラブ、委員会活動補助・図書登録・掲示物作成
えびの市民図書館	2名	受付業務図書館・貸出、返却業務・返却図書整理・移動図書館補助
ほうよう	2～3名	通所者レクレーション・介護補助
グループホームもみの木	2名	介護補助・衛生管理
飯野保育園	2～3名	読み聞かせ・昼寝の準備、補助・掲示物作成・施設管理作業幼稚園
J A えびの市	6名	道の駅、グリーンセンター、野菜集荷所業務
第二和光幼稚園	4名	読み聞かせ・掲示物作成・施設管理作業幼稚園・降園見送り
みなみえびの保育園	3～4名	読み聞かせ・掲示物作成・施設管理作業幼稚園・降園見送り

徒歩での移動に時間がかかる施設は、自転車で移動する。自転車がない生徒は実習までに準備する。

	時間帯
移動	13：10～13：30
実習	13：35～15：15
移動	15：15～15：35
活動報告書提出	

※総合コース生は清掃カット

3月に2学年での実習は終了するが、3学年4月以降も、引き続き同じ施設で初回の授業から実習を行う。5月には、活動実践や活動における心構えなどを3年生から2年生伝える会を実施している。



3年生が2年生に自身の経験をもとに熱心に話す光景が見られる会となっている。

⑥企画・実践

実習の中では、企画書の作成、実践を行い探究のサイクルを回していく取り組みを強化している。実践テーマを決定したらテーマに即した具体的な計画を立てていく。その際、統一様式の企画書づくりを同時に進めていき、企画書を完成させると具体的な実践の提案を各事業所で行う。

<p style="text-align: center;">「このコロナ禍をどげんかせんといかん！」企画書</p> <p style="text-align: right;">富崎県立飯沼高等学校 2年A組 松元 天理 前田 冬希 徳村 太志</p> <p>目的 飯沼自衛運動で実習を経験してきて数か月がたつ。これまで多くの経験をさせていただいたが、その中で課題も見えてきた。私たちが、この駅えびので実習をしているが、このコロナ禍で道の駅えびのの営業や、利用者の力を借りて社会に貢献しみんなで乗り切る為に出るから一つずつ取り組むことにした。</p> <p>企画内容 ① 募金活動 ② 外国人向けグルメ本 ③ 駅自のポスター ④ 新聞でエコバック作成</p> <p>期待できる効果 ① 医療従事者の方々や飲食店の営業者などへの支援。 ② コロナ収束後、外国人観光客に河津の飲食店を利用してもらうため。 ③ 不要不急の外出により減っている献血協力者を増やす。 ④ エコバックをお忘れの方のビニール袋の消費を最小限にするため。</p> <p>実施日 飯沼自衛運動去留日 13:35~15:00</p> <p>場所 道の駅えびの</p> <p>役割 進行・説明・レポート 松元、前田、徳村</p> <p>事前準備 ・募金箱 ・グルメ本 ・駅自ポスター ・新聞紙</p>	<p style="text-align: center;">普通科総合コース プロジェクト 企画書</p> <p>テーマ このコロナ禍をどげんかせんといかん！</p> <p>テーマ設定の理由 医療従事者の方々や飲食店の営業者などへの支援。 コロナ収束後、外国人観光客に河津の飲食店を利用してもらうため。 不要不急の外出により減っている献血協力者を増やす。 エコバックをお忘れの方のビニール袋の消費を最小限にするため。</p> <p>仮説（実践した時の効果） ・将来的に飲食店などが増進しやすくなる。 ・献血を求めている方々が募られる。 ・ビニール袋の消費を減らし、環境改善につながる。</p> <p>企画内容 ・募金活動 ・外国人向けグルメ本 ・献血のポスター ・新聞でエコバック作成</p> <p>実践までの計画 毎週水曜日 企画の実施</p>
--	---

↑ 実際の企画書

ここでは以下の項目で構成されている。

目的（テーマ設定の理由）

企画内容

仮説（期待できる効果）

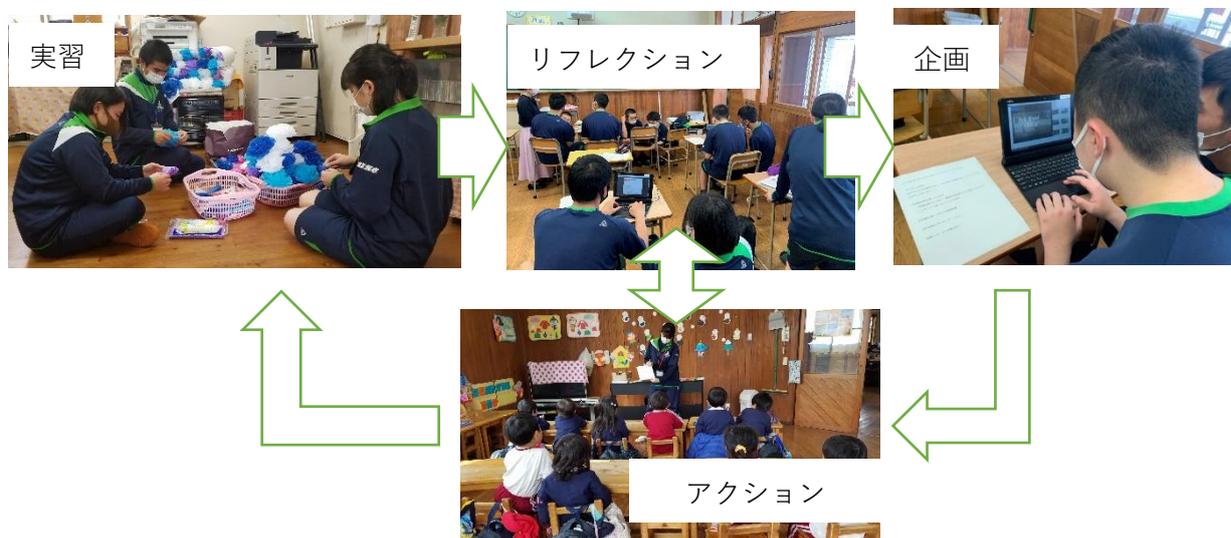
実践までの計画（実施日、場所など）

企画書の内容を実施する上での細かい準備および手順



これは、体験の中から探究していく方法を学んでいくことものである。取り組みの様子からも実習の経験が活かされたものとなっており、実習報告書を活用したりグループ内でアイデアを出し合いながら主体的な活動となっていた。

週2時間の実習においては例年、指示されたことに取り組むだけで1年を終える生徒も少なくない。そこで、企画書を用いてテーマに即した課題解決策や改善に向けた取り組みを実践することにより「自ら考え行動する力」を身につける。また、事業所で内容のプレゼンを行い企画実現に向けた活動や実践を繰り返すことにより探究のサイクルを回していく。



R 3 年度の実践プロジェクトテーマ

テーマ	実習事業所
レクリエーションで楽しみながら本にふれる実践 ～図書館利用者の増に向けて～	えびの市民図書館
楽しむ読み聞かせの在り方～幼稚園での実践を通して～	第二和光幼稚園
三密を配慮した福祉レクリエーション～シルバーケアの実践～	シルバーケアステーション ほうよう
小学生と高校生の交流における視点	飯野小学校
上江小学校における実践～児童と創る外遊び～	上江小学校
地元産野菜の地産地消に向けた P R の在り方～ J A での実践～	J A えびの市
道の駅えびのにおける実践～このコロナ禍どげんかせんといかん～	道の駅えびの
飯野保育園における実践～円滑なコミュニケーションをとるには？～	飯野保育園

実習のまとめと発表・報告会

3年生 9 月からの活動は、実習施設と担当者への礼状の作成を行い、その後 1 年間の実習のまとめを行う。実習の内容を振り返り、実習のなかから得たもの、また、自身の成長などについてまとめ個人レポートを作成する。レポート作成後、施設ごとに報告会用のプレゼンテーション資料、ポスターを作成する。また、1 月に実施するグローバル学習成果発表会（受け入れ施設、保護者、地域住民、中学生等を対象とした対外報告会）では、総合コース生が実行委員会をつくり企画・運営を行う。

この会での発表をもって 2 年間の活動を終える。

月	単元名	活動内容（講座内容）	場所
9	礼状作成	活動先への礼状を作成	H R
	活動のまとめ	1年間の実習の振り返り	H R
	報告書作成	1年間の実習の報告書を作成	H R
10	報告書作成	1年間の実習の報告書を作成	H R
	発表準備	発表会に向けた資料の作成	H R
11	発表準備	発表会に向けた資料の作成	H R
12	発表練習	資料を用いた発表練習	H R
	発表練習	資料を用いた発表練習	H R
1	発表準備	会場にて準備・練習	文化センター
	発表会	グローバル学習成果発表会	文化センター
	まとめ	2年間の授業のまとめ・振り返り	H R

⑦評価

「地域貢献活動」では以下のような評価基準を設け、生徒の活動を評価する。「地域貢献活動」の前半の校内での活動は、観点①、②、④を中心に評価を行う。「地域貢献活動」の後半からの実習は、観点①、③、⑤を中心に評価（各施設に評価を依頼）を行う。後半の校内での活動は、観点①、②、④、⑤を中心に文章評価を行う。

≪全体評価≫

観点	①主体性	②課題解決に向けた姿勢	③企画・実践力	④情報収集・分析能力	⑤コミュニケーション能力
評価 規 準	他人との関係性、社会との関係性、環境との関係性を認識し、地域社会に対する関心を高めるとともに、社会人としての自分を意識し、主体的に自分を成長させていく。	えびの市の地理的、歴史的特性と経済産業的な状況を理解し、社会的諸問題を解決するための思考力や判断力を身につけている	長期の実習経験を活かして円滑に行うための工夫をする力、失敗、反省をもとに新たなアイデアなどから考えた企画・実践をおこなう力を身につけている。	必要な情報を様々なツールを利用して集め、そのデータを活用して、実習や企画実践に活かすことができる。	さまざまな年齢の人と関わりながら業務を遂行することで、相手の立場や考えを理解し、状況に応じて自分を表現する能力を高めている。

《実習での3つの観点》

I	II	III
主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
①主体性	④情報収集・分析能力 ⑤コミュニケーション能力	③企画・実践力
<ul style="list-style-type: none"> ●他人、社会との関係性、地域環境との関係性を認識しようとする ●地域社会に対する関心をもつ ●社会人としての自分を意識し、主体的に自分を成長させている 	<ul style="list-style-type: none"> ●さまざまな年齢の人と関わりながら業務を遂行する ●相手の立場や考えを理解し、状況に応じて自分の考えを表現する ●様々な視点での情報から考え、活用した実習活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●職場業務をより円滑に行うための工夫をしようとする ●リフレクションにより質の高いものに改めて行こうとする ●新たなアイデアによる企画実践をおこなっている
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に人やものごとに関わっている ・積極的に活動に参加している ・社会人としての責任を理解しようとしている ・地域社会とのかかわりを認識しようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や考えを理解し、場に応じた接し方を実践する ・自分の考えや意見を正確に伝えることができる ・実習先と同事業の国内外の事例等にも着目し、新たな視点での活動に向けた展開ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に業務を行うための報告、連絡、相談を行っている ・活動の内容をより質の高いものにしようと工夫している ・活動で得た知識やスキルを活用して新たなアイデアによる企画・実践をおこなっている

⑧実習中止時の探究、ボランティア企画への発展

今年度も、コロナ禍というイレギュラーな状況で昨年に続き実習が中止となる施設もあった。しかし、実習が休業となった生徒たちが自主的に企画し実践されたものが昨年度の人吉豪雨災害支援プロジェクトに続いて出てきた。7月に豪雨により市内で浸水被害を受けた集落へのボランティア企画など生徒主体で行われた。企画から実践まで日頃の実習活動による取り組みの成果が続いている。



⑨グローバル学習成果発表会実行委員会

本校の発表会は普通科総合コースが企画運営を行う。それに伴い、3年2学期に実行委員会を発足させ準備を進めていく。今年度は、えびの市文化センターと全国の高校、大学、企業等を結びハイブリッド形式による大会開催に向けて実行委員長、担当リーダーを中心に準備に熱心に取り組んでいた。

実行委員会における役割

係	役割
実行委員長	発表会全体の統括、実行委員長挨拶 実行委員会の開催、進行←顧問との打ち合わせ
副実行委員長（司会）	委員長の補佐、総合司会の補助
総合司会	発表会の司会進行
L C A 説明	発表会の3A発表前にL C Aに関する説明を行う。
会場設営（パネル掲示）	3A～Cの掲示物・展示物の確認（担任、担当者へ） 設営計画・設置
舞台管理（セッティング）	開会式・閉会式の舞台配置計画・設営 発表会時の舞台配置計画・設営
機材管理（プロジェクタ）	発表時のプロジェクタ管理（ON/OFF）
機材担当（P C ・ パワポ）	発表時のパワポの操作
機材担当（来賓マイク）	発表に関する講評時のマイク受け渡し
総合受付	来賓受付、受付用名簿の作成、受付表示 誘導への連絡
来賓・中学生誘導 広報	発表当日の来賓および中学生の座席への誘導 リーフレット作成
駐車場案内	誘導用の表示作成、発表当日の駐車場誘導 リーフレット作成

三密を配慮した福祉レクリエーション～シルバーケアステーションほうようの実践～

普通科総合コース3年 今村亮介 古川陽介 牟田昇太郎

テーマ設定の理由

新型コロナ・ウイルスにより、地域貢献活動の担当現地で介護施設ほうようの活動が一時中断となり、学校で待機する中で活動再開に向けた取り組みの一つとして利用者の方々が楽しめるよう三密を配慮したレクリエーションを企画し、「紙コップトランプタワー」と「紙コップ棒箱入れ」をテーマで出しました。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

活動内容 ・体操 ストレッチ リハビリ ・ペットメイキング 手すり・車いす消毒
活動の成果 ・コミュニケーション能力の強化 ・自己判断の意識
活動で困ったこと ・利用者に声をかけるタイミングを見失う時があった。 ・不安な気持ちにさせないか心配な時があった。
自分に足りていないところ ・コミュニケーション ・自己判断 ・意思疎通
LCAを通して日常で生かされたこと ・授業や活動において積極的に発表するなど、自分のいけんを主張できるようになった。



レクリエーションの魚釣りで年配の方と一緒に交流。コミュニケーションは大事だと感じた。

コロナで休止中に考えた企画の内容を披露している様子。利用者の方々はとても楽しんでいたので良かったとこの時、思いました。



実習期間中のモニタリングツール

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
達成していること											
課題											
気づき											
目標達成	△	○	△	○	○	△	○	○	○	○	○

実習前	実習後
声の大きさを調整できなかった。	日常でも相手に伝わる声の大きさ意識できるようになった。
緊張して上手く相手と会話できなかった。	積極的に相手との交流を自らの意思で取りに行くことができた。
戸惑うことがあって時間をかけて取り組みないと気が合った。	周りを見ながら把握して動けるようになった。

企画・実践 ① ストロー吹き矢 ②トランプ紙コップタワー 期待できる効果 肺活量の強化 ②集中力の向上	③紙コップ棒箱入 ③手先の器用の強化
--	-----------------------

活動全体での学び
 活動担当場所で多くの失敗と成功を経験してきました。その経験の中で学んだことが三つあります。一つ目は、積極的に行動することです。場所によって異なりますが、特に指示を待っているだけで時間を費やさず、自らが判断してできることを探すことが重要です。二つ目は、声の大きさを考えながら話すことです。利用者の方々に聞こえる声で話さないといけない時があり困ったことが何度もありました。私はその経験から自分に自信をもって声を張る意識が高め、利用者との多くの交流を行うことができました。また、日常や学校生活でも声を張って発表など自信を持って答えられるようになりました。三つ目は、活動後に課題を考えることです。失敗した時は次に頑張るための改善点を考えたりしました。

地域貢献
 ①意思表示で相手の気持ちに寄り添えた。
 ②コミュニケーションをしっかりと取る。
 ③親しみを持って貰うために場の雰囲気盛り上げていく。

地域に貢献するということ
 地域への貢献は、社会で問題になっている問題や課題を私達一人一人がその解決に至れるように多くの方々と向き合い、また支えあっていくことで互いに知らなかったこと、知ったことを共有出来ていく、安心のあるものに創り上げていく。

今後の地域との関わり
 社会で働き始めてから実際に多くの経験をしていくことになる。自分の個性の力を生かせるためにも地域で募集しているボランティア活動などに積極的に参加して地域との関りを大事にしていきたい。

道の駅えびのにおける実践～このコロナ禍どげんかせんといかん～

普通科総合コース3年 前田冬希 松元天翔 徳村大志

テーマ設定の理由

医療従事者の方々や飲食店の営業車への支援
 コロナ終息後、外国人観光客に西諸地域の飲食店を利用してもらうため
 不要不急の外出により減っている献血協力者を増やすため
 エコバックをお忘れの方のビニール袋の消費を最小限にするため

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容
 ゴミ拾い、賞味期限のチェック、袋詰め、新聞作り、お血洗い、段ボールまとめ

活動での成果
 積極性を磨けた
 初対面でも話せるコミュニケーション能力の向上
 礼儀
 メリハリがいった

活動で困ったこと
 一つ一つの仕事が大変だった

自分に足りないこと
 集中力
 責任感

LCAで習得したことで日頃の生活に生かされていると
 コミュニケーション能力
 礼儀

実習前	実習後
やる気が出なかった	言葉遣いが丁寧になった
人とうまく話せない	初対面でも堂々と話せる
面倒くさそう	活動とのメリハリがいった

【商品確認】

- 商品の棚並べ
- 洗い物



実習間中のモニタリングツール

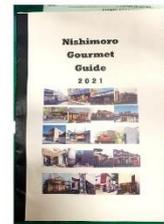
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
商品確認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
商品棚並べ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
洗い物	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新聞作り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
お血洗い	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
段ボールまとめ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

企画・実践「コロナ禍だからこそそのチャレンジ」

実践内容
 ○募金活動、外国人向けグルメ本製作、献血のポスター、新聞エコバック製作

期待できる効果

- ① 医療従事者の方々や飲食店の営業者などへの支援。
- ② コロナ収束後、外国人観光客に西諸の飲食店を利用してもらうため。
- ③ 不要不急の外出により減っている献血協力者を増やす。
- ④ エコバックをお忘れの方のビニール袋の消費を最小限にするため。



西諸地域の飲食店に視点を当てた
 グルメ本〔外国人観光客向け〕

活動全体での学び

活動を通して、私は自信を持って発言をしたり、積極性を身に付けることができた。また、どんな仕事も丁寧にこなすことができた。分からないことは自ら聞きに行ったりすることで責任感なども持つことができた。LCAを通して地域貢献する達成感なども感じることもできた。将来どんな職業に就いたとしても人と接することや、リーダーシップは必要だと思うのでこの活動を通していろいろなことを身に付けることができてよかったと思う。

地域貢献

地域貢献活動を通して、地域の課題や魅力を再認識することができた。また、仲間との助け合いや協力の大切さを改めて学ぶことができた。

地域に貢献すること

地域の課題や取り組みに共に向き合い、ふれあい、地域と共存すること。

今後の地域との関わり

まだまだ多く、地域について学び直接的に関わり地域貢献活動に参加していきたいと思う。

楽しむ読み聞かせの在り方～幼稚園での実践を通して～

普通科総合コース3年 松井悠葵 中屋敷良夢 佐伯瑞蘭乃

テーマ設定の理由

私たちが活動を行っている第二和光幼稚園は、三歳から五歳までの園児がももさん、うめさん、まつさんの三つの組に分かれて過ごしている。また、園はお寺の敷地内にあり、仏教の教えに従って園児を育てている。園児の数は少ないが、どの園児も元気で活発である。実習においては、掃除や読み聞かせや着替えの手伝い、レクリエーションなどを行っている。園児たちを見ていると、先生の言うことを聞いている一方、私達に甘えてくる一面が見受けられることから「子供たちとの接し方の工夫」というテーマで、実習内容のレクリエーションや遊びの時間に視点を置き、遊ぶ時間に園児とのコミュニケーションを意識して、テーマ設定に至った。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容

教室やトイレ掃除、園児の着替え、レクリエーション
読み聞かせ、運動会の手伝い、行事ごとの装飾作り

活動での成果

園児の事を第一に考えて行動する事、子供の周りの環境を綺麗に保つことの、掃除の大切さや読み聞かせの時には、ゆっくりと強弱をつけ、話すときにはわかりやすい言葉遣い。目線を合わせるなど色々学べました。

活動で困ったこと

園児が泣いてしまった時に慰めたり、泣き止ませたりすることが出来なかった

自分に足りないこと

同時に複数人の園児を見る事が出来なかった。

LCAで習得したことで日常生活に生かせること
常に周りを見て困っている子が居ないか確認出来る事や、学校や教室などの普段使う場所を綺麗に保てる



レクリエーション活動

これは園児や先生達と室内で交流をしている様子です。皆で一緒に活動し良い思い出が出来ました。

制作作業

これは園児の発表会で使う花を作っている所です。細かい作業で大変でしたがかなり達成感がありました。



実習期間中のモニタリングツール

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
園児との関わり	園児の話をよく聞けるようになった。									
掃除の大切さ	掃除の大切さを理解し、綺麗に保てるようになった。									
読み聞かせの大切さ	読み聞かせの大切さを理解し、ゆっくりと読むようになった。									
着替えの手伝い	着替えの手伝いを上手にできるようになった。									
運動会の手伝い	運動会の手伝いを上手にできるようになった。									
装飾作り	装飾作りを上手にできるようになった。									

実習前の不安

実習後

子供と仲良くなれるか心配	皆と仲良くなれた
上手に関われるか	上手に関われた
緊張する	良い緊張が続いた
先生とのコミュニケーション	先生達とも仲良くなれた

企画・実践 絵本を読み聞かせ

○子供が本を沢山読むから。 ○本への興味を引き出し、想像力を広げる。 ○優しさ、思いやり、知恵を獲れる。
仮説(実践した時の効果) ○本を読むことへの楽しさ。 ○コミュニケーション能力の向上。 ○想像力の向上。

企画内容

○私たちが絵本を模写し、その本を園児の前で読み聞かせをする。○その読み聞かせの感想などをしてコミュニケーションを取る。○先生方の読みかきかきのマネ(スピード、声の大きさ)を試みる。

活動全体での学び

この活動で園児との接し方や、話す時に大切な、目線を合わせる、園児にわかりやすい言葉遣い、子供の事を第一に考えて行動する事、子供のいる周りの環境を綺麗に保つ事の大切さ、読み聞かせの時にゆっくりと読んだり強弱をつけたりなど、子供について色々学びました。

地域貢献

えびの市に沢山の子供が居て、個性豊かで元気な子が沢山居ることに気づき、もっと地元の人々と絡んでいき、もっと地元へ貢献していきたいと思いました。飯野高校は地元の子供達と関われる機会が沢山あるのでもっと活用していきたいです。

地域に貢献すること

飯野高校だけでなく小、中学校も巻き込んで、地域で連携して子供が育ちやすい環境や子供のためになる場所作りを進めて行きたいと思いました。

今後の地域との関わり

将来自分に子供が出来た時に子供の周りの環境を気を付けたり、綺麗に保つことを心掛けたりし、まず自分の周りから意識して行動し、その活動を少しずつでも広めていって地元を活性化を進めて行きたいです

児童向けに興味・関心を持つことができる実践 ～図書館利用者の増に向けて～

普通科総合コース3年 中川 凌 東 妃南

テーマ設定の理由

私が活動を行っているえびの市民図書館では、配架、貸出、返却、業務などを主に行っています。また利用者の誘導をしたり、本を整理したりするなどを取り組んでいます。このように、仕事に取り組んでいた僕自身もコミュニケーションが苦手であり克服ができませんでした。でも、この実習活動では学校でできない経験を活かし、とてもいい体験になりました。図書館の利用者を見てみると高齢者の利用が多くその一方児童の利用が少ないことに気付きました。そこで、私は地域の人たちに提供しようと考え、この企画にしました。その内容が、「児童向けに興味・関心を持ちことができる実践」というテーマにしました。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

具体的な活動内容 ・清掃・利用者の案内 ・展示物 ・登録番号入力 ・貸出、返却業務 ・配架 ・閉架本の処分								
活動で困ったこと 利用者への誘導がなかなか実行に移せずにできなかった所です。さらに、自分の考えや意見が正確に発言できなかったことです。								
自分が足りなかったところ ・人とのコミュニケーションと行動力不足 ・少し積極性がなかったところ								
LCAで習得したことで日頃の生活にかさされること LCAの活動を通して、コミュニケーション力と時間厳守によって将来に活かしていきたいと考えています。								
実習の前後での変化 最初の活動の時は、少し緊張してあまり積極的にできず、その後は自分の行動力を発揮することができました。								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>実習前</th> <th>実習後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初めての作業の時、緊張してコミュニケーションが取ることが出来なかった。</td> <td>グループ活動の時、自分の意見を伝え、コミュニケーション能力を高めることができた。</td> </tr> <tr> <td>ちゃんと相手の立場や考えができてなかった。</td> <td>ちゃんと人と接することができた。</td> </tr> <tr> <td>だんだん作業がスムーズにできた。</td> <td>ちゃんと自分の行動力を発揮することができた。</td> </tr> </tbody> </table>	実習前	実習後	初めての作業の時、緊張してコミュニケーションが取ることが出来なかった。	グループ活動の時、自分の意見を伝え、コミュニケーション能力を高めることができた。	ちゃんと相手の立場や考えができてなかった。	ちゃんと人と接することができた。	だんだん作業がスムーズにできた。	ちゃんと自分の行動力を発揮することができた。
実習前	実習後							
初めての作業の時、緊張してコミュニケーションが取ることが出来なかった。	グループ活動の時、自分の意見を伝え、コミュニケーション能力を高めることができた。							
ちゃんと相手の立場や考えができてなかった。	ちゃんと人と接することができた。							
だんだん作業がスムーズにできた。	ちゃんと自分の行動力を発揮することができた。							



約1年間、実習活動を行い、様々な業務を取り組みました。活動内容は、清掃、配架、貸出・返却などの業務を行いました。特に、配架の作業が大変でした。そこで、工夫した点は、本のジャンル番号を見てどの分野かを確認し、しっかりと整理できました。そして、人のコミュニケーション能力をしっかりと活かし、行動力を発揮することができました。

実習期間中のモニタリングツール

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
スキルレベル											
最初の活動の様子	初めは緊張して、コミュニケーションがとれなかった。	徐々に緊張が和らぎ、コミュニケーションがとれるようになった。	グループ活動がスムーズに進むようになった。	自分の意見を積極的に伝えるようになった。	相手の立場を考慮するようになった。	作業がスムーズに進むようになった。	作業の効率を上げるようになった。	作業の正確性を高めるようになった。	作業のスピードを上げるようになった。	作業の丁寧さを身につけた。	作業の責任感を身につけた。
業務内容	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却	清掃、配架、貸出・返却
学び	コミュニケーション力	コミュニケーション力	コミュニケーション力	コミュニケーション力	コミュニケーション力	コミュニケーション力	コミュニケーション力	コミュニケーション力	コミュニケーション力	コミュニケーション力	コミュニケーション力
達成度	△	△	○	○	○	△	○	○	○	△	○

企画 児童向けに本に関心や興味を持ち触れてもらえる機会をつくり
 ○貸し出し数を分析し、最も多く貸し出された本が興味をもってもらえると思われる。
 ○本が苦手な人も本を借りて読む楽しさ、面白さなどを実感させる効果が期待できる。

企画内容
 ①児童にとって難しい本を選び、分かりやすくポップを作りお勧めする。(本=いのちをいただく)
 ②年齢対象を児童まで絞った貸し出しランキングから、貸し出しの多かった本を紹介、ポスターを製作する。
 (おしりたんてい、おばけずかんの2冊)

活動全体での学び
 私がこの1年間、LCA(地域貢献活動)で学んだことは人とのコミュニケーション力と自分でしっかり考える行動力を身につけたことです。さらに、利用者への対応という様々な役割の分担をして積極的に取り組みました。この貴重な1年間の実習活動で社会に必要な要素を学び、今後は、将来に活かしていきたいと思っています。

地域貢献
 約1年間、実習活動を行ったなかで自分自身の社会経験を積み上げ、それを実行に移し、様々な業務を取り組みました。非常にいい経験になりました。
地域に貢献すること
 私は、地域貢献するというのはとても大事だと思いました。実際にこの活動を通して社会に必要な知識や実践力などを将来で活かしていきたいと考えています。
今後の地域との関わり
 今後は、地域の人との交流を深め、さらに、触れ合い様々な貢献活動を行っていきたく考えています。それから約1年間の実習活動を活かしていきたいと思っています。

上江小学校における実践～児童と創る外遊び～

宮崎県立飯野高等学校 普通科総合コース3年 齋藤晟吾 高崎レオ

テーマ設定の理由

私たちが活動している上江小学校は小中一貫教育が展開されています。小学校は1学年1クラスしかなく1クラスの人数も12人程度しかいません。実践活動を通して、先生たちの負担や大変さがよく理解できました。例えば、一人一人の児童に分からない問題を説明するときに児童によって説明の仕方を変えないといけないことや、昼休みに終わりのチャイムが鳴った後も気づかずに遊び続けている子がいないかなどを児童を管理する上で確認しないといけないようでした。そこで、児童が自ら考え、行動できるよう自分たちの力で考え、行動できる支援はできないかと思ひ、遊びから自立に向けた取り組みができるようこのテーマを設定しました。

テーマ実習活動を通しての学びと変化

活動内容 ・授業の手伝い 昼休みのオリエンテーション ・掲示物（作品）の入れ替え	
活動での成果 ・児童と沢山関わられた ・授業などで児童に分かりやすく説明できた ・コミュニケーション力が上がった	
活動で困ったこと ・自分でも分からない問題を聞かれた時の対応	
自分に足りないこと ・児童だけでなく職員とのコミュニケーション	
日頃の生活に活かしたいこと ・自動と話すときはしっかり視線を合わせて話すこと	
実習前	実習後
児童への接し方が分からない。	学年ごとの接し方を理解できた。
自分一人で作業をしようとしていた。	協力して作業して効率良く終わらせることができた。
周りを見て行動できていなかった。	周りを見て自分から仕事を見つけることができた。
分かりやすい説明をすることが難しかった。	児童によって説明の仕方を工夫することができた。
小学校の手伝いは何をすればいいかわからなかった。	自分から仕事を探そうになった。

実践活動から得られた学び

- ・児童と沢山コミュニケーションをとることの大切さ。
- ・様々な業務を細かく理解すること。
- ・児童によって教え方を工夫すること。
- ・学年によって楽しめる遊びを提案・工夫すること。
- ・協力して効率良く作業すること。
- ・相手と視線を合わせて話すこと。
- ・事故なども想定して指導すべきことはしっかり注意。
- ・作業と児童たちへの対応をしっかり両立すること。



【昼休みのレクリエーション】

担当の学年だけでなく他の学年とも遊ぶことがあります。学年によって流行りの遊びが違うので学年に合わせた遊びを考えることが少し難しかったです。

【授業サポート】

授業の中で問題がわからない子や困っている子に理解できるように教えることができた。児童によって説明を工夫することが大変だった。



【先生の業務サポート】

掲示物の貼り付け・撤収では今まで貼ってあった児童の作品を撤収し新しい作品を張り付ける。先生の業務が多岐にわたることを実感した。

実習期間中のモニタリングツール

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
学習態度											
自分の学習成果を振り返る											
授業内容											
学び											
目標達成	△	△	○	○			○	○		○	○

企画提案・実践

一緒にあそびを創る 企画内容 ミニキックベース、線鬼ごっこ、フルーツバスケット

期待できる効果

- ①ゲーム系レクで参加する生徒同士のコミュニケーションが深まる
- ②脳トレなどの要素で脳の活性化
- ③コロナ禍の中、体を動かすことができる要素も取り入れ運動量の低下を防ぐ
- ④ルールやグループ分けを工夫すれば、身体機能に個人差があっても参加しやすい環境になる

地域貢献活動を通して感じたこと

地域に貢献するということは学びになると思ひました。高校生活のなかでは学ぶことのできない5つ以上年下の児童への正しい接し方や先生方の仕事の大変さなど実際に体験することによって分かることもあり、地域で活動することによって様々なことについて学びや気づきがあるので地域貢献は大切だと思ひました。

今後の地域との関わり

えびの市を出て宮崎や鹿児島に進学しますが、進学先でも積極的に社会に貢献できることは何かを考えながら行動していきたいと考えています。

8 地域探究活動（普通科探究コース必修科目）

①目的

本校生徒の実態として、入学前の成功体験をあまり持っておらず自己肯定感が低い生徒も少なくない。また、そのことが学習意欲や目的意識をもてない一因にもなっている。大学進学を目標とする普通科探究コースにおいては自ら興味・関心のあることに実践を通して取り組む地域探究活動を学校設定科目として設定する。これは、以下のことを目的として行うものである。

- ・自らの興味・関心を引き出し実践を交えながら主体的な学びに向かう力を養う
- ・地域資源を生かすため様々な情報を分析・処理し、創造的な判断や自分の考えをアウトプットできる
- ・地域社会をフィールドに課題を考え、変容する社会にも対応できる
- ・地域の課題を俯瞰して考え、国内外問わず広くコミュニケーションを図る
- ・デザイン力、ICTを活用できる力を身につける

以上のように、主体性をもって学びに向かう姿勢と様々な力を身につけることを目的として「地域をフィールドに探究的な学び」をすすめる「地域探究活動」を行う。これは地域課題の解決に向けた実践を通して達成感や充実感を持たせると同時に、地域に未来を担う人材として、自己の未来像をイメージしながら進路についても考えることをねらいとしたものである。また、地域の人々と協働し開かれた学校・信頼される学校づくりの一環とする。

②対象／単位

普通科探究コース 2年生 2単位 3年生 1単位

③期間・時間（取り組みの概要）

自分の身の回りや地域の課題、関心事から設定したテーマでプロジェクトをつくり実践する。地域における聞き取り調査やフィールドワークをはじめ広い視点から課題解決策を考えて実践する。地域のみならず、国内外の人とつながりインプット、アウトプットを繰り返しながら探究のサイクルをまわし社会課題解決に向けた方策について学びを深める。

水曜日 6・7時限（50分授業 14：35～16：25 ※45分授業 14：10～15：55）

2年												3年											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
インプット・テーマ設定																							
									調査・分析、企画														
															実践								
									リフレクション（振り返り）														
																		進路実現					

④インプット・テーマ設定

月	単元	活動内容	場所
4	ガイダンス①	地域探究とは？先輩の事例に学ぶ	H R
4	ガイダンス②	アイデア100出しワーク	H R
5	SDGsから考える①	SDGsとは？	H R
5	SDGsから考える②	関心あるゴール目標の課題の調査	H R
6	SDGsから考える③	プレゼン／まとめ	H R
6	地域実践①	持続可能な観光チャレンジ@企業講話	H R
6	地域実践②	Eバイクで行く歴史サイクリングツアー企画	H R
6	地域実践③	Eバイクで行く歴史サイクリングツアープレゼン	H R
7	国内外から考える①	社会起業家による講話＋対話	H R
7	国内外から考える②	海外における社会課題解決の取り組み	H R
7	国内外から考える③	国際医療・地域医療の取り組み	H R
9	まとめ	インプットのまとめ	H R
9月～テーマ設定			

2年の1学期は、様々な視点、実践のスキルを磨くインプットやアウトプットを行う。これは自分のプロジェクトを立ち上げた際に必要な視点や力を身につけることを目的としている。講座については、地域の事業者や団体と連携し実施する。外部講師を活用することで実社会のリアルに触れることができ、地域から社会全体の変容や課題について考えることにつながる。また、実践活動も入れることで、地域への興味・関心や地域とのつながりを意識できると考える。

また、インプットの際には、講義だけでなく対話の時間を設け必ずアウトプットの場をつくる。これにより講義テーマの理解を深めるとともにプレゼン力なども養う。

⑤テーマのプロジェクト化

2年の2学期には自分のテーマを設定する。まず人生グラフ（ワークシートあり）を活用して自身の振り返りから興味関心を探り出す。また、今関心のあることなどキーワードを出していきテーマを設定する（最初はたまかなものでよい）。テーマを設定したら、プロジェクト化に向けて具体的にどんなアクションを起こしたいのかを考え予備調査を実施する。これは、地域で活動する大人や同じようなテーマで活動する3年生にインタビューを行いプロジェクトの具体的な内容の参考にする。

その際、本校独自の地域サポーター制度を活用して生徒が自らアクションを起こして円滑に活動が進むようにする。

【これまで立ち上がったプロジェクト】

○地域医療を考える高校生の会 ○ONPING ○イエメン支援隊 ○飛虹奇 ○道の駅を起点とした地域活性化策について ○焼酎造りを科学的観点からみる ○地域医療の現状について ○温泉で地域を元気に！～京町温泉郷の活性化から人口増加を図る一提案～ ○国際協力について考える ○市の観光資源を再考する（市内ツアー企画）○環境保全からえびの市の未来を考える ○よかこプロジェクト ○地域からつなぐ国際協力 ○子育て支援プロジェクト ○吉都線活性化プロジェクト など



イエメン支援に向けたミーティング

ローカル情報誌の記事作成

オンライン相談室 P J



地元団体とのミーティング

起業プロジェクト MTG

テーマ設定に向けたワーク



全国高校生 SR サミット

吉都線活性化プロジェクト

地域医療を考える高校生の会

プロジェクトとしてすすめるにあたっては、下記のサイクルを繰り返しワクワク創りを進めていくことを重視する。



また実践は、地域をはじめ様々な人を巻き込みながら取り組むこと、活動の幅を域内に限定することなく国内外からの視点で取り組み、実践が地域や社会に及ぼすインパクトなどその影響についても検証しながら次のステップにもつなげていく例えば、探究の時間に専門家の話を聞きたいとなれば直接足を運ばなくても Zoom でつなぎレクチャーを受けたり、プレゼンをしてフィードバックをもらったりするなどオンラインも積極的に活用することを日常の授業から意識することで自走する生徒が多く

見られた。中には、地元の自衛隊駐屯地への関心から安全保障、国際支援をキーワードに中東イエメンの支援に向けて国内の支援団体にアプローチし国内在住のイエメン人とつながりイエメンコーヒーの輸入・販売による支援プロジェクトを立ち上げる生徒が出てきた。この他、自らの関心あることや地域課題などから次々とアクションを起こすプロジェクトが生まれている。これは、写真のように3年生が自らの活動を2年生に向けてポスターセッションする機会やプロジェクトの実践をする際に学年関係なく有志を募って活動するなど縦横のつながりが後続く生徒たちへのよい刺激となっている。また、グローバル学習成果発表会、高校生の全国サミットをはじめ県内外の高校生とオンラインで対話をする機会にも積極的に参加している。今年度も、オンライン海外研修やバングラディッシュの専門学校で日本語教師のオンラインインターンを実践するなどグローバルに活動する生徒が増えたことが顕著であった。



⑥実習のまとめと発表・報告会

3年生2学期以降は、プロジェクトによる実践のまとめを行う。プロジェクトから得た学びについてまとめ個人レポートを作成する。また、プロジェクトごとにポスター、プレゼン資料を作成し MSEC フォーラムで発表を行う。

1月に実施するグローバル学習成果発表会（受け入れ施設、保護者、地域住民、中学生等を対象とした対外報告会）では2年間の取り組みの成果を発表する。

月	単元名	活動内容（講座内容）	場所
9	実践の検証および再実践	取り組んだ実践についての成果を検証する。その後、必要な再実践に取り組む。	H R
10	個人レポート作成	2年間の実習の報告書を作成	
	個人レポート作成	2年間の実習の報告書を作成	
	発表準備	発表会に向けた資料の作成	H R
11	発表準備	発表会に向けた資料の作成	H R
12	発表練習	資料を用いた発表練習	H R
	発表練習	資料を用いた発表練習	H R
1	発表準備	会場にて準備・練習	文化センター
	発表会	グローバル学習成果発表会	文化センター
	まとめ	2年間の授業のまとめ・振り返り	H R

7 評価

「地域探究活動」では以下のような評価基準を設け、生徒の活動を評価する。校内外での活動を問わず、以下の①～⑤の観点から評価を行う。

《全体評価》

観点	①主体性	②課題解決に向けた姿勢	③企画・実践力	④情報収集・分析能力	⑤コミュニケーション能力
評価 規 準	地域社会に対する関心を高めるとともに、社会における課題を自分事として考え、課題解決や持続可能な社会に向けた新たな価値の創出に主体的に取り組む姿勢を養う。	地域の地理的、歴史的な特性と経済産業の状況を理解し、社会的諸問題を解決するための思考力や判断力を身に付ける。	プロジェクトの実践を円滑に行うための工夫をする力、失敗、反省をもとに新たなアイデアなどから考えた企画・実践をおこなう力を身につける。	地域のみならず、国内外の視点から情報収集、分析を行い課題解決に必要な力を身に付ける。	さまざまな人と関わり協働しながらプロジェクトを進めていくことや、活動を通じてのアウトプットにより表現する能力を高める。

《実習での3つの観点》

I	II	III
主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
①主体性	④情報収集・分析能力 ⑤コミュニケーション能力	③企画・実践力
<ul style="list-style-type: none"> ●地域から社会課題について考え自分事として捉える ●地域社会に対する関心をもつ ●主体的にプロジェクト活動を展開している 	<ul style="list-style-type: none"> ●自ら様々な人とのつながりをつくり関係性を構築する ●相手の立場や考えを理解し、状況に応じて自分の考えを表現する ●国内外の視点からの情報を活用して考え、実践活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●課題解決のために必要な実践に向けた企画・実践である ●リフレクションを活かした取り組みを実践している ●独創的なアイデアによる企画実践をおこなっている
<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に人やものごとに関わっている ・積極的に活動に参加している ・社会に自分事として関わろうとしている ・地域社会とのかかわりを認識しようとしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場や考えを理解し、場に応じた接し方を実践する ・自分の考えや意見を正確に伝えることができる ・国内外の事例等にも着目し、新たな視点での活動に向けた展開ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の内容をより質の高いものにしようと工夫している ・活動で得た知識やスキルを活用して独創的なアイデアによる企画・実践をおこなっている

吉都線活性化プロジェクト～駅を変える～

宮崎県立飯野高等学校 普通科探究コース3年 西村 中村 堂領 田代 本坊 勝原 木浦木 山毛 新村

1 なぜ駅なのか（探究テーマ設定理由）

A. 一日当たり利用者数減少が進んでいるから

→現在一日当たりの利用者数400人程度であり、20年ほどで利用者が70%以上減少そのため吉都線がいつなくなってもおかしくない厳しい状況である

B. 利用しやすい駅にしたいから

→アンケートの結果、6割以上が利用しにくいと感じていることが分かった。

理由としては、雰囲気が暗い、学習スペースがなく、時間を有効に使えないなどがあった

C. 交通手段を途絶えさせないため。

→九州豪雨により、吉都線が1か月運航停止。電車を利用しての学生や地域の方々に臨時運行バスが出されたが、通常の2倍の時間がかかるなどの影響を与えた

この経験から、吉都線は我々高校生には欠かせないものだと感じた

2 研究仮説

・駅は地域の玄関口であり、地域を象徴するものだと考えた。そこで、まずは地域の方々の協力を得るためにも最寄り駅である飯野駅に注目して活動し始めた。そこで、飯野駅の現状を把握し課題解決に向けて活動することでこのプロジェクトのコンセプトでもある「駅を核としたコミュニティづくり」を実現できるのではないかと考えた。

3 調査活動

- ・アンケート調査による飯野高校生のニーズ調査
- ・吉都線関係者との意見交換会
- ・チームメンバーとの日々のミーティング



飯野駅は利用しやすいか



4 実践 調査結果や得られた知見を基にアクションへ

「駅を核としたコミュニティ」をつくることで 衰退→活性化へ転換させることができるのではないかと

Vison

駅舎の魅力化

アクション①

イルミネーション点灯式



装飾デザイン

イルミネーションの装飾を1からデザイン

イルミネーション設置作業

約20名の飯野高校生と地元の方々と協力し、試行錯誤を重ね設置

点灯式

たくさんの方々の協力により、飯野の夜がより一層色鮮やかに！例年よりも多くの方々の参加していただき、「駅を核としたコミュニティづくり」の第一歩に!!

Vison

吉都線を使ってもらうきっかけづくり



アクション②

観光列車

ガイド養成講座

実際に観光列車でガイド案内をされている方とzoomをつないでいただき、ガイド指導をしていただいた

ガイドで話すお店の調査

ガイドで地域のお店を紹介するために、駅周辺のお店にいき話を伺いに行った

普通列車での模擬ガイド

普通列車を使って模擬ガイド講座

しかし ガイドがコロナウイルスの影響により中止
それでも吉都線のために何かできないかと考え...

アクション③

観光列車お出迎え企画

えびの飯野駅で観光列車ツアーとタイアップしたお出迎え企画を実践

飯野駅に途中下車する観光列車の乗客の方々のために、自分たちでオリジナルの記念乗車券を作成した
また、地域住民の方々に協力してもらい一緒に列車のお出迎えを行った



5 実践後の課題

- ・一時的な活動にしかならず、日常的な駅の活用につながらなかった
- ・持続的な活動にしていかなければならない
- ・もっと多くの地域住民を巻き込んだ活動にしていける必要がある

6 成果と今後の展望

- ・多くの人に吉都線の現状を知ってもらうことができた。また、少しではあるが現状の解決に取り組むことができた
- ・駅の活動に多く参加することによって様々な視野を広げることができた
- ・地域を巻き込んだ駅の活性化への実践をできた
- ・地域の大人と高校生とのつながり作りの場を作れた

4 隣の国に教習をみんなに	12 つくも責任つかう責任
11 読み聞かせるまもつくりを	17 パートナシップで目標を達成しよう

高校生起業家 ～ゲートボール跡地をキャンプ場に～

飯野高等学校 3年 宮原 和天 3年 上野 颯

① E-GEPについて

Q 1. E-GEPとは？

A 1. E-GEP(えびのグローバルアントレナープレシッププログラム)の略で、複数のグループ会社が集まったものがE-GPになります。他には、オンライン料理教室・学生の宿舎・地域医療教室などの会社があります。

Q 2. なぜキャンプ場を作るのか？

A 2. もともと、温泉関係の活動をしており、また、アウトドアが最近人気があるということで、えびの市の自然・温泉・食・アウトドアを提供できる場所を作ろうと思い活動しています。

② 研究仮説

- ・温泉×アウトドアのサービスはニーズがあるのか？
- ・どのくらいの規模で行い、対象者をどんな家族ずれにするのか？

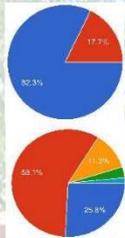
③ 調査活動

・温泉×アウトドアのキャンプ場を利用してみたいか？

→ 8割の人が訪れたいと回答!!

・行くなら誰と行きたいか？

→ 半数以上の人が家族と回答!



起業家授業の様子

遠隔で大学の先生【山中先生】と羽田野さんを繋ぎ毎週水曜授業をしています!

④ 実践

・ボランティア募集【Facebook】



シェア数15件!

閲覧者約3万人越え!

・ゲートボール跡地をキャンプ場へ!

大人約15人
高校生約20人が参加!



テレビ取材!

⑤ 実践後の課題



8月21日/22日に実施予定であったイベントが新型コロナウイルスの影響により中止、コロナ終息後のイベント開催に向けた準備! 新型コロナが終息しなかったときのためのオンライン化の計画を立てる!

⑥ 成果と今後の展望

コロナの影響が多い中で活動することができ、イベント開催まではいかなかったが改めて実践までの難しさを学ぶことができた。卒業となり活動は終了するが、温泉を絡めた探究活動を後輩に引き継いでいきたい。そして、受け継ぐことで温泉郷の活性化を継続していきたい。





高校生IPEプロジェクト



宮崎県立飯野高等学校 普通科探究コース3年 梅北賢志 有馬大成 阿辺山翔平

1 なぜ地域医療なのか？（探究テーマ設定理由）

- A 住民が安心して暮らせる持続可能な医療環境に
→例えば、えびの市をはじめとする西諸地域には産婦人科が不足。また、ニーズの多様化により医療人材の不足も懸念されている。
- B 医療人を目指すからこそ地域医療の現状を高校生のうちに
→医療職を目指しているが、実は医療、地域の現状について知らないことが多い。
- C まちづくりに欠かせない医療
→子育て世代の居住に医療環境の充実は必須ではないか。高齢者の割合が多い地域だからこそ医療環境は重要ではないか。

2 研究仮説

- ①地域医療に携わる人と高校生との交流の機会を創ることで将来の医療人材の増加に寄与できるのではないかと
- ②IPEの考え方は、医療関係者だけでなく、住民も一緒になった環境づくりにつながるのではないかと
- ③まちづくりという視点からも医療の充実が地方創生につながるのではないかと

3 実践前の活動

- ①地域イベントへの参加
- ②実践に向けたフィールドワーク
- ③西諸地域で活動する地域医療を考える会への連携打診



市内で開催されている対話型イベントに参加して地域住民とのつながりを作ったり、温泉郷のフィールドワークを行い、観光をはじめ医療の視点からも地域を考えることができた。



社会福祉法人の坂口さんに活動について話をする機会があり、地域医療を考える会の定例会に参加させてもらうことが実現。今後、高校生と大人が連携した取り組みに向けて意見交換をしていくことになった。

“医療”がテーマになっていることからコロナ禍における活動に制限も。オンラインと対面を併用しながら進める。

4 実践

アクション① “地域医療を考える高校生の会”を設立

地域医療に関して、高校生や地域住民にまちづくりの視点からも活動をすすめていくために、日本でもほとんど例のない「地域医療を考える **高校生**の会」を設立し活動を開始した。

活動内容

- ①アクションに向けたミーティングの定期開催
- ②具体的なアクションに向けた調査
- ③地域医療を考える会との連携

活動に賛同してくれる人を如何に拡げるかが課題に！

アクション② 高校生が地域医療!? の実現

大人の地域医療を考える会との連携協議の結果、共催イベントを開催することが決定。イベント企画に向け、協議、準備を何度も行った。

西諸地域の医師、看護師をはじめとする様々な職種の医療従事者 西諸地域の高校生にも呼びかけ他校生の参加も

2021年7月25日 14:15~16:15
医療関係者と高校生のトークイベント開催

2021年7月25日(日) 参加申し込みも受付!!
14:15-16:15
・KITTOA-林芝

少しでも医療系の仕事に興味のある高校生 **大歓迎**

地域医療を考える会 飯野高等学校
会長 梅北賢志 副会長 阿辺山翔平 有馬大成

アクション③ 医療×温泉

フィールドワークを通して考えたのが、観光と医療もありではないかということであった。もともとメンバーの一人が観光を視点に活動どうしていたこと、温泉療法に着目してwebページを作成

5 実践後の課題

- ・地域団体との連携などかなり前進できたがコロナ禍もありイベントへの参加者が思ったよりも低調だった。
- ・立ち上げた活動の拡がり、後輩への活動の継承などクリアしなければならない課題がある。

6 成果と今後の展望

当初の目的を達成に向けたアクションが起こせたことに非常に意義がある。地域団体との連携や他校生を巻き込んだこと、高校生が医療に関わるという新たな取り組みが評価されたことで今後の活動につながると感じた。



未来カフェ～対話で創るまち・学校～



1 なぜ対話なのか？（探究テーマ設定理由）

宮崎県立飯野高等学校 普通科探究コース3年 長友彪 川畑姫菜

- A 多種多様な人と対話できる場を作りたい
→多くの課題を抱えている現代は、様々な人が協働してその解決に取り組む必要がある。そのため対話が必要になってくる。
- B コミュニケーション能力を高めたい
→様々な世代を交えた対話に取り組むことで多くの人に出会う。様々な意見・価値観に触れる機会を増えコミュニケーション力も向上する。
- C 地元の魅力を発見できる
→実は、自分が生まれ育った地域も知らないことが多い。知る機会を増やし話すことで今まで気づくことのできなかった魅力を見つける。

2 研究仮説

- ①未来カフェに参加してもらうことで、「対話」に興味を持って意欲的に参加する人を増やすことができるのではないか。
- ②未来カフェを通して、対話力・コミュニケーション能力の向上を図ることができるのではないか。
- ③オンライン(ZOOM)を活用することによって、より多くの方に参加してもらい活動の輪を広げることができ深い学びにつなげることができるのではないか。

3 実践前の活動

- ・地域団体主催の対話型イベントへの参加
- ・オンラインイベントづくりの試験実施
- ・地域団体との連携

⇒ 様々な人とつながりができたことで、えびの市民団体連絡会議との連携が実現



市民100人が参加したえびの未来カフェ（2019年） 全国グローバルリーダーズsummit（2020年）

実際のイベントでは、企画・運営方法についても調査。様々なことを学ぶ貴重な機会となった。

4 実践

コロナ禍においても人とのつながりをつくることのできるオンライン、対面での対話イベントの実践

アクション① オンライン(ZOOM)未来カフェの開催	アクション② 校内での開催
<p>オンライン活用で拡げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの参加者に集ってもらうためにオンラインが有効 ・40代以上にZoom初心者が多い（パソコン初心者も） ・イベント前のZoom研修会を起業支援センターで実施 <p>えびの市民団体連絡会議との連携により、10代～70代の幅広い世代、えびの市にゆかりのある県外在住者を含め約80名の参加を得て、初となる計3回のオンライン未来カフェ（対話イベント）を行った。事前研修の成果もあってか、初とは思えないほど話が盛り上がった。</p> <p>テーマ 「雑談とは？」 「普通って何？」 「学ぶって何？」</p>	<p>オープンスクールで10代に拡げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生にも体験してもらい対話のよさや大切を感じてもらおう企画 <p>テーマ 「もし学校を0から作るとしたら」</p> <p>校内イベントで在校生に拡げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内でも対話する機会を拡げていくこと、この活動の継続を考えて2年生実行委員を募集し企画・運営して実施 <p>テーマ 「成長するとは？」</p>
<p>アクション③ えびの市の未来を語る会の開催</p> <p>えびの市長、市議会議員選挙の3か月前に立候補予定の方と飯野高生がこれからの地域づくりについて話す機会を作り、意見を交換することができた。</p>	

5 実践後の課題

- ・緊張で話に入るのが難しい人もいてファシリテーションによる場づくりのスキルアップが必要である。
- ・オンラインでは、接続や操作がうまくいかずスムーズに進行することが難しい場面もあった。

6 成果と今後の展望

未来カフェの認知度を上げることができ、県内の方はもちろん県外の方の参加が増加した。参加者の方々から「参加をしてとてもよかった」、「とても楽しかった」などの声をいただき、参加者にとって有意義なものとなったと感じている。また、様々な視点から地域の未来について語られていたこともあり今後も認知度を上げさらに参加者を増やし、地域づくりの重要な柱に進化させていきたいと感じた。

9 地域支援活動（※カリキュラム上では課題研究で実施）

①目的

本校生徒の実態として、入学前の成功体験が少なく自己肯定感が低い生徒も少なくない。また、そのことが学習意欲や目的意識をもてない一因にもなっている。これらのことから生活文化科においては専門科目の学びを活かし、「課題研究」において校外実習を伴う地域支援活動に位置付けて展開する。これは、以下のことを目的として行うものである。

- ・生活文化科の特徴を活かした体験的な活動をとおして、学ぶことの楽しさや意義を理解する。
- ・地域の施設や人材を活用することにより、郷土に対する理解を深める。
- ・校外の幅広い年齢層の方々との異世代交流、発表会や報告会を行うことにより、豊かな感性やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を育成する。
- ・人間関係を築く力、社会に参画し寄与する態度、規範意識や公共心の育成を図る。
- ・自己肯定感を高め、将来有為な人材を育成する。

以上により、専門科目におけるスキルを地域にアウトプットする「地域支援」をコンセプトに、「地域支援活動」を行う。地域での活動体験を通して、達成感や充実感を持たせると同時に、社会人としての責任や社会的役割を感じながら、自身のキャリアに結びつけることをねらいとする。

②対象 生活文化科 3年生 4単位

③期間・時間（取り組みの概要）

えびの市内の事業所等の協力を得て、生徒が事業所実習を毎週金曜の午後に実施する。まず、4～5月に地域の現状について学び、5月下旬～10月末まで実習を行う。水曜午後の課題研究時にリフレクションや企画を行い専門科目のスキルを活かした企画・実践を行う。11月から活動のまとめとプレゼンテーションの準備を行い、地域をはじめ中学生なども対象に活動成果報告会を開催する。

水・金曜日 5・6時限（50分授業 13：35～16：25 ※45分授業 13：15～15：55）

2年												3年											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
準備		専門教科のプロジェクト						課題テーマ決定				課題研究（地域支援活動）の実施											
												リフレクションとまとめ						進路実現					

専門教科プロジェクトに関わる

- ・フードデザイン
- ・SAPと連携した地域特産物開発
- ・ファッション造形基礎
- ・子育て応援プロジェクト(小物製作)
- ・発達と保育
- ・子育て応援運動会プロジェクト
- ・生活美学
- ・高齢者支援プロジェクト

地域実習（全15回）

全12の事業所ごとに半年間の長期実習グループ
協議（目標設定）→実習→振り返り（課題→解決策）※繰り返し
※各事業所における課題について
専門教科の技術・視点からの解決策の提案、実践、リフレクション

活動成果のまとめ・発信

- ・実習レポート作成
- ・発表プレゼン作成
- ・グローバル学習成果発表会

④地域事業所等での実践活動（半年間の実習活動）

月	単元	活動内容	場所
4	ガイダンス①	マナー講座	H R
4	ガイダンス②	オリエンテーション	H R
5	えびの市を考える①	地域事業者による講話	H R
5	実習準備	自己紹介カード作成等	H R
5月～10月 各施設での実習へ			

地域事業者による講座を経て実習に向けての準備に入る。実習先については、専門性や進路希望を考慮して決定する。

実習先が決定すると受け入れ施設に提出する自己紹介カードを作成する。実習活動を通して特に頑張りたいこと、特技や趣味等について記入する。実習前には、事前準備として施設を訪問する。ここでは、各施設より活動内容の説明や活動に際しての諸注意が行われ、本活動に入りやすくする。内容としては、5～10月に週2時間の施設実習を行い専門教科の学びから課題解決をはかる活動とした。休校期間中には不足するマスクを製作し、実習先などに配布するなど高校で身につけたスキルを地域へアウトプットする活動を実践に移すことができた。えびの産業文化祭でも規模を縮小して地域特産物の開発・販売の実践を行った。

①全体計画

年	月	実施項目
2		科目名 ○フードデザイン →S A Pと連携した地域特産物開発 ○ファッション造形基礎 →子育て応援プロジェクト（小物作り） ○発達と保育 →子育て応援プロジェクト(運動会企画) ○生活美学 →高齢者支援プロジェクト
	6	地域実習①～⑩ グループ協議（目標設定）→実習
	10	→振り返り（課題→解決策） ※事業所における課題から専門領域を活かした解決策の提案、実践
	9	個人レポート作成
3	12	発表プレゼン作成
	1	グローバル学習成果発表会

【連携・協力先※実績】えびの市子育て支援センター、えびのボランティアクラブ、えびの市立飯野小学校、えびの市立飯野中学校、えびの市立真幸小学校、J A えびの市青年部、J A えびの市女性部、えびの市出身プロモデル（増元美喜氏）、裏千家、えびの市 SAP 会議、えびの産業文化祭実行委員会、えびの市社会福祉協議会、飯野保育園、社会福祉法人慈愛会

②専門科目に組み込んだプログラム

2年生までは、学校設定科目「えびの学」、「生活産業基礎」、「課題研究」および「家庭クラブ活動」において地域でのボランティア、飯野地区の小中高連携事業に参加、地域の大人を講師に招いた講演会、他学校や団体との遠隔授業など、活動を行う中で、地域とのかかわりを深め、視野を広げている。

1・2年生では、基礎的知識や学力・技術を高め、2年生から「課題研究」を実施し、3年生の「課題研究」での地域支援活動を見据えて、それぞれのテーマを模索しながら、ボランティア活動等を行っている。

3年生では、1・2年生で学習した内容をさらに深め、「課題研究」で探究活動を実践する。自分たちが地域に還元できるものは何かを常に考えて行動する。地域の自治体、企業、NPO団体などとの連携を軸に、地域の活性化や問題解決に取り組んでいる。生活文化科では、地域支援活動として、社会の課題を高校生の視点で解決する探究活動を実施している。



1年	茶道講座 手話講座 認知症サポーター養成講座 ICT活用ファッション造形基礎 シニアファッション企画書作り 読み聞かせ会 米粉を使った商品プレゼン 田植え・稲刈り小学生サポート	
2年	保育園訪問活動 kokoyade フィールドワーク 布製おもちゃづくり ビュッシュ・ド・ノエル製作 えびの市産業文化祭(小物製作販売) マスク作り→福祉施設・保育園へ お弁当づくり講習会→中学校へ オリジナルポーチ作り	
3年	保育園訪問活動 ウォーキング講座 浴衣の着付け講習会 ドレス製作 ファッションショー マナー講座(3回) フラワーアレンジメント講座 福祉施設訪問活動 えびの産業文化祭(開発商品販売)	

③実践活動

専門科目で取り組んだことをアウトプットし地域の課題解決に役立てようと課題研究では、半年間の実習を行っている。これは地域で展開されている事業所で生活科学の視点から課題を見つけ、解決のための実践を行うものである。今年度も様々な取り組みが行われている。

授業内容（実習先）

- ファッション分野（ヒューマン）・・・検定対策、ヒューマンサービス関連の研究
- フード分野（フード）・・・検定対策、フード関係の研究（地域特産物の商品化プロジェクト）
- 保育分野（教育関係）・・・教材研究など実習先と関連した研究



分野	ファッション	フード	保育
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○検定対策（希望者） 受験級の指導 ○研究活動（地域支援） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> お楽しみ会企画 小学生向けミシン教室 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○個別・グループ活動 コースターづくり 美容室でのプレゼント作り 	<ul style="list-style-type: none"> ○検定対策（希望者） 受験級の指導 ○研究活動（地域支援） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> えびの産業祭り出店 グルメコンテスト出店 農産物の活用計画 お弁当作り講座 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○個別・グループ活動 ・学校菜園 ・スーパーのポップ作り ・飲食店のマスコット作り 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材研究 （実習先の課題・準備） ○研究活動（地域支援） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 子育て支援センター イベント企画 中学校出前講座 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○個別・グループ活動 ・保育園・幼稚園向けおもちゃづくりや壁かざり ・保育園児向け便利グッズ ・図書館へ大型絵本バック
授業展開	2年次 ○課題研究の説明、先輩の紹介 ○課題意識、目的意識調査、研究テーマ模索（ワークシート1）→後日、講座の発表 3年次 ○テーマに沿った活動計画作成（ワークシート2） ○材料費などまで含めた計画書作成 ※検定受検者は作業も可 ○えびの市に出前講座の依頼（えびの市の現状、若者に期待すること）1h ○実習先でのマナーと心がけるべきこと（ワークシート3） ○事業所への挨拶、打ち合わせに向けての準備（ワークシート4） ○実践計画（課題研究Ⅰ、Ⅱとの関連性）（ワークシート5） →ワークシートは5まで。		

各事業所での実践



HANNAHでの調理サポート



RIZオリジナルポーチ



第二和光幼稚園



正一 Web ページ作成の打ち合わせ



飯野小家庭科実習サポート



えびの市民図書館竹アート製作

6 実習のまとめと発表・報告会

3年生11月からの活動は、実習施設と担当者への礼状の作成を行い、その後実習のまとめを行う。実習の内容を振り返り、実習のなかから得たもの、また、自身の成長などについてまとめ、施設ごとに報告会用のプレゼンテーション資料、ポスターを作成する。これを、1月に実施するグローバル学習成果発表会（受け入れ施設、保護者、地域住民、中学生等を対象とした対外報告会）において発表する。

月	単元名	活動内容（講座内容）	場所
11	発表準備	発表会に向けた資料の作成	H R
12	発表練習	資料を用いた発表練習	H R
	発表練習	資料を用いた発表練習	H R
1	発表準備	会場にて準備・練習	文化センター
	発表会	グローバル学習成果発表会	文化センター